

黄色防蛾灯による チョウ目害虫の防除

チョウ目の中でもオオタバコガは、多くの作物を食害し、果実や茎の中に侵入するため防除が難しい害虫です。

図1は、フェロモン（メスがオスを呼び集めるために放出する匂い）を使用し、誘引されたオスの成虫を粘着板で捕え、地域内にとの程度オオタバコガが発生しているかを調査したものです。

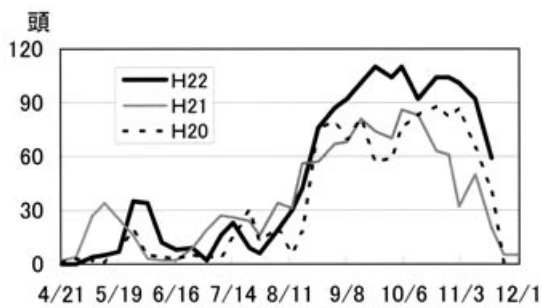


図1 オオタバコガ捕殺数(木更津市)



レタスほ場の黄色防蛾灯

黄色防蛾灯により、特定の波長の黄色い光を夜間に点灯すると、夜行性の蛾の飛来・交尾・産卵などの行動が抑制されます。

近年、さまざまな作物で、黄色防蛾灯が導入されています。

図2・3は、平成20年に袖ヶ浦市で防蛾灯を設置したほ場のハスモンヨトウとオオタバコガの発生数を調査したものです。

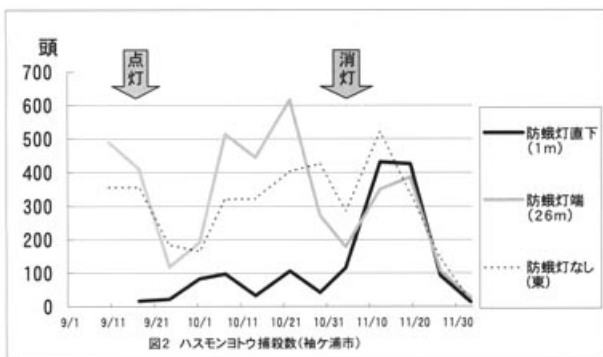


図2 ハスモンヨトウ捕殺数(袖ヶ浦市)

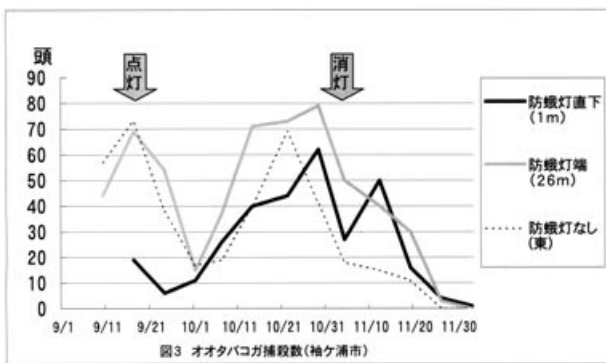


図3 オオタバコガ捕殺数(袖ヶ浦市)

ハスモンヨトウの場合は、飛来を抑制する効果が高く、ほ場内の密度を効果的に下

げる事ができました。(図2)しかし、オオタバコガについては、発生が多い10月には、飛来数を抑制することができませんでした。(図3)

のみと比べて数%から20%ほど食害を減らすことができました。

黄色防蛾灯によりハスモンヨトウやオオタバコガなどの害虫の発生をゼロにすることはできません。そのため、薬剤による防除を同時に行わないと大きな被害となります。

レタスやトウモロコシで、食害の調査を行った結果では、薬剤散布と黄色防蛾灯を併用した場合、薬剤散布

導入する場合は、隣接するほ場の作物も含めて検討する必要がありますので、農林振興センターへご相談ください。(中臺)

また、電気代は7千円程かかります。なお、黄色防蛾灯は黄色の光を好む害虫（カメムシなど）を集めたり、光の影響を受けやすい作物では、花芽分化促進、開花遅延などの生育障害を生じさせたりすることがあります。



フェロモンによる捕殺数調査の様子